

非核の政府を求める石川の会 会報

非核・いしかわ

《第二四回総会・記念講演より》

核廃絶をめぐる世界と日本の動きと

地方の会の活動

非核の政府を求める会事務室長 斉藤俊一氏

総会に先立ち、全国の会・斉藤俊一事務室長による記念講演が行われました。「今日のお話は個人的な見解ですが、石川の会からの要請に沿って六点到整理しました」として、①この半年間に開かれた、核兵器をめぐる三つの国際会議が示したもの——第六六回国連総会／ソウル核保全サミット／二〇一五年NPT会議第一回準備委員会——世界の核兵器保有状況、②オバマ米政権の核兵器政策は変わったか——キッシンジャーは語る／ハンス・クリステンセンの見方、③「日本が非核の政府であったなら」——核保有国の「番頭役」に終始する日本政府、④「核兵器と原発」を考える——「放射線被害のない日本を」は人道的課題／「非核五項目」と原発問題、⑤「非核の政治へ、政府を変える」——会の存在意義にふれて——非核の政府の会の今日的意義／「非核の日本」への政策提言、⑥「非核の政府を求める会」らしき運動の発展をめざして——中央の活動、地方の

事務局

〒920-0848

金沢市京町 28-8

石川民医連労働組合気付

Tel 076-251-0014

郵便振替

00760-0-15689

非核 5 項目

- ① 全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める。
- ② 国是とされる非核三原則を厳守する。
- ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する。
- ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する。
- ⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する。

活動／「被爆の実相」発信を、などについて、限られた時間の中、わかり易くお話を戴きました。

とくに、第六六回国連総会では、全体として核兵器廃絶機運の高まりが示された(特に非同盟諸国)ことを歓迎したいと報告されました。

また、人道的課題である『核兵器廃絶』と『原発反対』との関係では、会としてどう対応するかについて私見を述べられました。「非核五項目」の本会は、一九八六年、七万発の核兵器＝生存か、死か！＝核戦争に巻き込まれないための運動として始められました。「原発」への態度の違いが、本会の設立の目的を進める障害にならないことが必要です。「非核五項目」での一致を原則とする会として運動を進め、全国各地で原発問題に取り組んでゆく——と話されました。

各地の取り組みの紹介では、会の幟(のぼり)、地方紙全面広告、大判チラシの毎年発行など創意ある取り組みの実例が紹介されました。全国の会は近く総会を控え、斉藤事務室長にはご多用の折、ご来沢戴き、貴重なお話を有難うございました。

(永山孝一)

◎第二四回総会は六月九日、近江町交流プラザで開催され、提出議案の全てが承認されました。



建築の設計という仕事に関わるようになって五〇年になる。若い頃、建築・都市の計画をめぐる私たちが人間の営みは「地表のデザイン」であると感じたが、今も「人と風土からの発想」を大切に心得ている▼四月五日付非核の政府を求める会ニュースに紹介された『核兵器と原発』を考えるつどい(三月二四日・東京)の池内了さんの講演要旨を読んだ。「私は今、『文明の転換期』ということを主張しています。現在の文明は地下資源文明で：明らかに曲がり角にきている」、「問題は地上資源文明へいかにソフトラディングするか」とのお話に共感▼まとめで、「地下資源文明は上流が×で、中流が○で、下流が×。地上資源文明は上流が○で、中流が×で、下流が○。まさに対極的です」とのご指摘でした▼まさに、国の未来を選択する世紀となっている今こそ、「地下資源文明」の独占的大資本による全国一体型文明に比して、「地上資源文明」が、本来の姿である地域分散型「地表のデザイン」へとシフトし、地域産業資本の活性化、ひいては地域社会の真の発展へと連なることを期待している。(二)

非核の政府を求める会常任世話人会より

二〇一五年NPT再検討会議に向けて

第一回準備委員会で話し合われたこと

原 和人

表記の会議がウィーンで四月三〇日から五月一日まで開催された。この会議の内容について、五月二五日の非核の政府を求める会常任世話人会に提出された(1)ICANオーストラリア理事ティム・ライト氏への取材、(2)ウールコット議長の要約、(3)レベッカジョンソンの報告、(4)一六カ国共同声明などの資料を要約した。

【世界の国々の四分の三が核兵器禁止条約の即時開始に賛成している】(1)

ICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)によると、一四六カ国が核兵器禁止条約の即時開始に賛成している。これに反対しているのはわずかに二六カ国、そして「洞ヶ峠」(模様眺め)の国は二二カ国であった。核兵器保有国の中で、中国、インド、パキスタンは、核兵器禁止条約に賛成している。ラテンアメリカ、カリブ海諸国、アフリカ、アジア・太平洋地域、中東の国々のほとんどが賛成している。EUの中で賛成は、オーストリア、アイルランド、マルタおよびスウェーデン。NATOの中ではノルウェーのみ。アメリカの核兵器への依存を公言している非NATO諸国の中で、オーストラリア、日本、韓国は、「洞ヶ峠」を決めこんでいる。NATO諸国の中で、「洞ヶ峠」の国は、カナダ、クロアチア、

ドイツ、アイスランド及びブルーマニアである。核兵器禁止条約を支持する国は、世界人口の中で八％を占めており、圧倒的に多数になっている。

【ウールコット議長の議長要約】(2) (3)

今回の第一回準備委員会はオーストラリアのウールコット大使が議長を務めた。今回の会議の内容にかかわる文章は採択されず、作業文書の一つとして、「議長要約」として出された。この「議長要約」について、WILPE(婦人国際平和自由連盟)のビートルリス・フィーン氏の「準備委員会の成果を評価し、さらなる前進を」というコメントとレベッカジョンソンの報告からである。

二〇一〇年NPT会議の成果の上の会議だった

核兵器の人道上の問題が深められた

議長要約では、核兵器が再び使用されることは不可避ではなく、核兵器の破壊力、核兵器が引き起こす言語に絶する人々の苦しみ、その影響、環境や気象への影響、将来の世代への脅威など、核兵器の人道上の問題が強調され、深められた。これらの問題は、二〇一五年の会議までにさらに取り組みが求められることになるだろうと述べている。

レベッカジョンソンの文章には「二〇一三年に核兵器の人道的に関する国際会議をノルウェーで開催する」とある。

一方で、核軍縮近代化への懸念も表明された

核保有国は、核兵器削減交渉をすすめる一方で、先進的、新型の核兵器やその運搬、また関連するイ

ンフラの開発を行っており、これらは核軍縮撤廃の重大な障害となるという懸念を述べた。

レベッカジョンソンの文章には、この点で「従来を上回る不安が強調された」とある。また、ロシアは、NATOが引き続き弾道ミサイル防衛と各種配備を行うのであれば、米国との新START条約の遵守に影響を与えたいというシグナルを送ったとある。

大量破壊兵器のない中東地域問題で進展があった

二〇一〇年NPT再検討会議では、中東地域の非核地帯の実現が課題になったが、この会議の議長が決まり、会議も今年度中に開催されることが決まった。

レベッカジョンソンは、その日取りが確認されたいず、イスラエルとイランの出席の確認も取れていないと補足。

原発問題での言及がなかった

議長要約には「事故は・・・核の安全を強化する必要を示した」とだけ述べ、原子力の否定的影響について発言した代表の発言を反映せず、原子力の「平和利用」を、「奪えない権利」として主張した。レベッカジョンソンは、福島原発事故の後を受けて、核の安全と保全に関する論議が始まった。これは、二〇一〇年のNPT会議における誇らしげな「原子力リネッサンス」と著明な対比をなす現象であると述べている。

【核軍備撤廃の人道的次元に関する一六カ国共同声

【明】(4)

五月二日にオーストリア、エジプト、インドネシア、ノルウェーなどの一六カ国を代表して、核軍備撤廃の人的的次元に関する一六カ国共同声明が、スイスのベンノ・ラグナースイス大使から報告された。

この共同声明は、準備委員会の中で、非人道的兵器という意味において、核兵器のない世界への論議を加速した。共同声明は、「議長要約」に述べたように、人類に計り知れない苦痛を及ぼすものであり、国際法、国際人道法に照らしても許されるものではないと述べている。そして、核兵器は、いかなる状況下であっても二度と使用されてはならず、これを保証する唯一の方法は、NPT第六条の完全な実行であり、「全面的」な、「不可逆的」な、「検証可能」な、核兵器の廃絶であると結論づけている。

(非核の政府を求める会常任世話人)

「ニコッをつなげ願いを伝えたい

下 政信

二〇一五年の核不拡散防止(NPT)再検討会議に向け、四月三〇日から五月一日までウィーンで開かれた第一回準備委員会への要請に日本原水協代表団の一員として参加した。

ウィーン大学での原爆展と署名活動が一番楽しかった。女性たちが次々に折鶴を折り、署名した人に被爆証言記録を手渡した。男性たちが呼びかけをした。私は母国語で呼びかけることが尊厳を大切にすることであり、親近感を持たれると考えドイツ語

で言葉を書いておいた。女性たちが心を込めて折った美しい鶴を多くの人にあげたいので私は一人ひとりに手渡ししながら原爆展を「見てください」「sehen sie bitte」と心を込めて言った。学生さんには皆、ニコッと微笑み受け取ってくれた。女性ばかりにあげていた。「署名してください」「schreiben sie bitte」も言った。「ビッテ」を高めて言った。吉岡さん、上羽さんは英語で呼びかけておられた。小林さんと上羽さんは学生からの質問に答えたり、説明したりしておられた。英会話が役に立つ、努力の賜物だろう。ドイツから駆けつけてくれた峯村さんの娘さん、高知から飛入り参加の若い男女も協力してくれた。

原爆展二日目からヨーロッパ核軍縮青年プロジェクトチームの四、五人が一方に机を置いて署名活動に協力してくれた。エジプトの青年、イスラエルの女性、ヨーロッパの青年医師も入っていた。その医師は前の晩、青年プロジェクトの会で被爆者証言があった時に話をした一人だった。署名休憩中、私は彼に「ドイツ反核医師の会のチェルノブイリ事故の本を読みました」と伝えた。

以前に買っておいた横四〇cm程の原爆写真集を持参していったが、活用してくれそうな贈呈先が分からずにいた。静岡の小林さんの機転でウィーン大学日本語研究科に贈呈できて喜んでもらった。

ウィーン大学日本語研究科でも被爆者証言がなされ、学生は皆、真剣に聴いていた。その他校長から「被爆者は差別される社会でどのように生きてこられましたか?」と聞かれて、被爆者の見玉三智子さんと吉岡幸雄さんが話されていました。さらに三、



NGO代表(中央の2人)に折り鶴を渡す日本原水協代表団メンバー(筆者の下さんは一番右)

四人の学生から質問が出され、答えられ時間切れとなった。まだまだ質問がありそうな感じの会となった。

NPTに「国際人道法」の考えを取り入れることを提案している国がある。スイス等。核兵器保有自体が道徳的、倫理的、人権の全ての面から許されざる犯罪だという考え。古くからある法律だが日本では知られてこなかった。国際人道法に従えば、国が始めた戦争でも行為の責任と罪は個々人が負うことになる。当然、指導員の責任も問われる。民間人を殺傷することも罪となる。今朝日選書「国際人権法 戦争にもルールがある」を読んでいる。

各国の政府代表との話し合いは団長の高草木博

さんがうまく進めたが重要なことだ。国際平和ビューロー（IPB）や核戦争防止国際医師会議（IPNW）など連帯できる団体と連帯することは運動を広げるうえで大変重要だ。核抑止論や軍事という観点だけでなく、経済の面から核軍縮をとらえ、訴えることも重要だと思う。核や武力は1%の富裕者の金もうけの手段だということ。

原爆展で多くの仲間に出会った私は大きな力をもらった気がした。競争社会では競争の考え方だけでは幸せになれない。平等で平和な世界をつくろうと努力すること。仲間が一人でも増えれば幸せを感じるができるのではないか。

被団協から取り寄せた五〇冊の「ヒバクシャ」パンフレットは署名した人に配布された。女性たちが折った鶴と共に署名は五九二筆だった。カンパをくださった人々にお礼申し上げます。ありがとうございます。

（原水爆禁止石川県協議会会員）



被爆証言

被爆六七年目の夏に思う（上）

石川県原爆被災者友の会 中田喜重

ヒロシマ・ナガサキから六七年になる今、被爆者として思っていることを報告します。

最初に、簡単に私の被爆体験ですが、九歳の時の長崎被爆です。爆心地から二・五kmの長崎駅近くの、父の知人宅の二階に四歳上の姉と二人でいました。

強烈な閃光！轟音と爆風

部屋の窓からの夏の陽射しの暑さを避けて、壁で遮られた廊下へ出た直後、強烈な閃光！そして轟音と爆風（衝撃波）で家は一瞬にして半壊状態となりました。

てつきり、至近距離に大型の爆弾が落ちたのかと思ひ、半壊状態になった家の階段を落ちるようにして下へ降りました。

幸い二人とも怪我はありませんでした。廊下に出ずに部屋にいたならば、窓ガラスの破片を雨のように全身に浴びるところでした。

外へ出ると浦上の方角は真っ黒に（キノコ雲でしょうか）煙か雲に覆われています。

そのうち、今飛び出してきた、家の裏手の方からも、火の手が迫ってきます。

そのあと、幸いにも外出していた、父や母と再会。父母たちは、長崎駅前にいたときに被爆し、急いでこの知人宅へ戻ってきたのです。生後一年の妹を背負って外出していた母と妹は、腕や顔を焼かれ、赤

く焼け爛れた姿でしたが、家族ともに山の方を目指して避難しました。

二日二晩、山中で過ごし三日目の夜、長崎を離れるため、瓦礫のあちこちがまだ燻っている爆心地を抜けて、救援の列車に乗るため、数km先の駅（道ノ尾）を目指して、多くの避難者の列に混じって歩きました。

すでに夜になっていましたが、焼け跡のあちこちで肉親の亡骸をダビに付す煙でしょうか。また、親を探して彷徨、子どもの姿も覚えていません。

主を失った一頭の馬が狂ったように駆けていきます。また、別の場所には大きな腹を上にして横たわる馬の死体。

その爆心地を抜ける時の血と膿の匂い、死の匂いを今も、忘れることができません。

当時、私たち家族六人は（父母・私たち兄妹三人・祖父）父の仕事の関係で長崎にいたのですが、特にこの年の春から、長崎も空襲を受けるようになり、家族だけでも父の郷里である金沢へ疎開させようとして、長崎駅まで出てきたところで原爆にあったのです。

この日、父は勤務先の浦上にある会社（酸素工場）を休んで長崎駅へ来ていて被爆したのです。もしこの日、浦上にいたなら、爆心地ですので当然助かっています。

父は被爆翌日、翌々日と爆心地の勤務先があった周辺を訪ね、多くの仲間の死を知ることになります。

この時、同僚の一人が地下室にいて奇跡的に無傷で助かり、再会できたようですが、そのあと数ヶ月後に訪ねた時には彼は亡くなっていました。

父も戦後金沢へ来てから、原因不明の四〇度を超える高熱を出したり、皮膚に異様なできものがあったりと不安の日々を送ることになったのですが、幸いにして死線を乗り越えることができ、八九歳の長寿を全うすることができました。

長崎上空で何が起きたのか

その時、長崎上空で何が起きたのでしょうか。

B29（ボックスカー）から投下された原爆は、地上五〇〇mの上空で炸裂。炸裂と同時に、人工の太陽とも言わべき火の玉（火球）ができました。直径一五〇mか二〇〇mほどの火球です。数百万度、数十万気圧という超高温・超高压（プラズマ状態）の火球です。火球からはガンマ線、中性子線などの強烈な放射線が、そして強烈な光と数千度（爆心地で三〇〇〇℃以上）の熱線が地上を襲ったのです。火球は急速に膨張しながら衝撃波と爆風を発生させます。

その時、きのこ雲の下は……

その時、爆心の街（きのこ雲の下）は如何だったでしょうか。

野外にいた多くの人たちは、生きながら焼き殺され、建物は押し潰され、街は原爆の炸裂から数秒間で壊滅したのです。長崎の爆心の街並みが原爆の炸裂から一〇秒後には消滅したのです。

街は一瞬にして叩き潰され、吹き飛ばされ、街のあちこちから火災が起き、燃え広がり、建物内部に閉じ込められたり、下敷きになった人たちを、生きながら焼き尽くしました。

その時、辛うじて死を免れた人も、皮膚はぼろぼろに焼かれて垂れ下がり、また、血を吐きながら、やがて次々と倒れていきました。

また、家の下敷きになった家族を助け出すこともできず、迫り来る火災の中、その場を離れざるを得なかった人。幼子を残したまま死ななければならなかった母親。これらの人たちの無念の思いはどんなものであったのでしょうか。

こうして爆心の街は、一瞬にして地獄と化しました。しかも悲劇はその時だけに止まりませんでした。

その後、救援のために爆心の街に入った兵士たちや、肉親・知人を探して入った人たちも残留放射線の深刻な被害を受けて、次々と倒れていったのです。

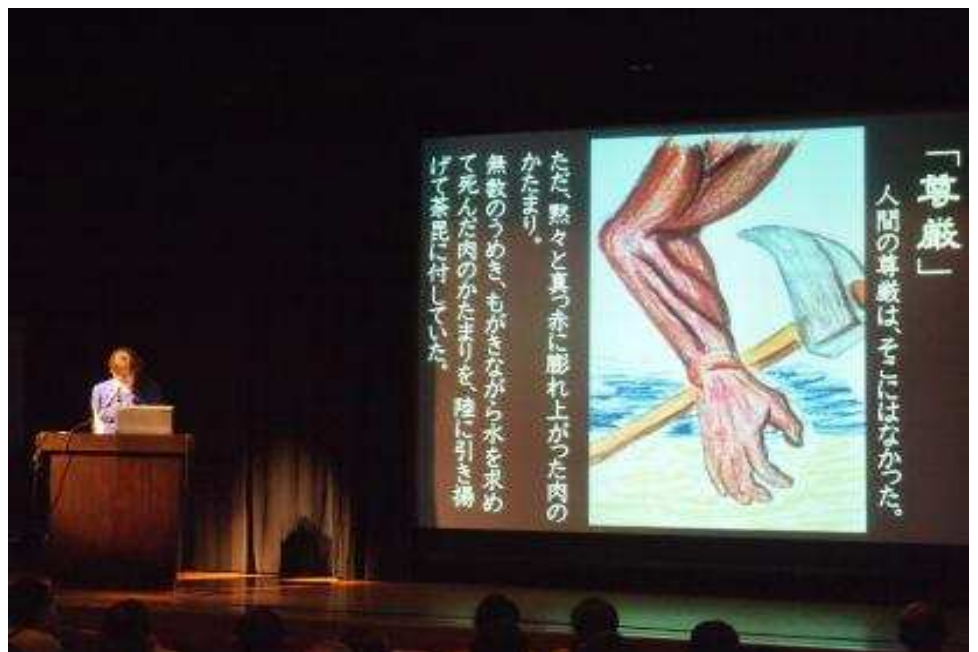
これは、放射性降下物（放射能を含んだ粉塵・放射性微粒子）が呼吸によって、また、放射能汚染されたものを飲食して体内にとり入れ、内部被曝したための被害です。

六七年たった今も生き残った多くの被爆者は、様々な疾病を抱え苦しんでおります。

人を殺す兵器に人道的なものはありませんが、核兵器は絶対悪の兵器であり、いかなる場合であっても使ってはならない兵器だと思っています。

（次号につづく）

◎本稿は六月一〇日、県教育会館ホールで開かれた核戦争を石川防止する医師の会総会記念企画「被ばく証言とナターシャ・グジーコンサート」における中田喜重さんの被ばく証言です。



中田喜重さんが所有していた被爆体験画展の写真をパワーポイントを使って紹介する核戦争を防止する石川医師の会事務局の小野栄子さん

（六月一〇日、石川県教育会館三階ホール）

非核いしかわの会 リレーエッセイ

アジアの歴史を複眼で学ぶ

川西 徹郎

日頃の活動では御無沙汰をしております。韓国に李鐘世（イチョンセ）氏というエスペランチストで二〇年来の友人がいる。知り合いになって一〇年ほどたったころ八月にソウルを自動車で移動中、突然話しかけてきた。

「私も原水爆には反対だから誤解をしてもらっては困るが、日本の原水爆禁止の運動には正直ついていけないところがある。あの三六年間の帝国主義的支配から脱し、自分達の国、自分達の言語、自分達の名前を再び得たのはわれわれには原爆で戦争が終わったからだとの認識があり、加えて今の日本の平和運動からは日本の人が三六年間のことをどう考えているのかがわれわれに見えてこないからだ。」

見せてもらった彼の昭和一五年度通知表、尋常小学校第二学年三組には李鐘世の名が記されていたが、昭和一六年度には姓の李は日本式の全くの別姓になっており、昭和一七年度には名の鐘世も日本式の全くの別名になっていた。

私共ハ大日本帝国ノ臣民デアリマス。私共ハ心ヲ合ワセテ天皇陛下ニ忠義ヲ盡シマスが通知表の表に日ノ丸とともに枠組みで印刷されていた。

金沢市民のエスペラント講習会で李鐘世氏は「日韓のこれからの関係とエスペラントの役割」

という講演をされた。その中で、自分が小さかった時、ずっと上の姉が結婚式を前にひどく号泣していたのを覚えている。姉が日本の警察によって挺身隊や慰安婦に連れて行かれないうようにと父母が無理な結婚を急がせたからで、その泣き声は今も耳に残っていると話しをされた。

このように聞かせてもらおう話は初めてで、近代史を特に授業で学ぶこともなかった私は複眼でもっとアジアの歴史を学ぶ必要性を感じ、エスペラントに加えて韓国語を今忍耐強く勉強している。あと残されているであろう時間を逆算しても、時間が足りないのが残念であるが。

会報で私が勉強になったこと

北口 吉治

会報が集団的に編集されていることに感心しています。一月号から勉強になったことは昨年の沖繩の平和大会報告です。

先日、年金者組合で『学習の友』六月号「安保と沖繩問題」を学習しました。沖繩の米軍の占領支配について未知の部分が多いことが分かりました。米軍の犯罪数（殺人事件、傷害事件、強盗事件、婦女暴行事件）、基地内の犯罪は知らされていません。これは一例ですがその他、米軍の特権や住宅環境など沖繩県民との差別などもっともっと勉強したいことがあります。今日の日本情勢の大きな課題は沖繩基地問題だと思います。東南アジアの平和にとっても日本の平和にとって

も。かつての県内の「四・二八沖繩行進」の時の「沖繩をかえせ」を力いっぱい歌ったことを思い出します。

沖繩を返せ

作詞 全司法福岡高裁支部
作曲 荒木 栄

固き土を破りて
民族の怒りに燃える島 沖繩よ
我等と我等の祖先が 血と汗をもて
守り育てた沖繩よ
我等は叫ぶ沖繩よ 我等のものだ沖繩は
沖繩を返せ 沖繩を返せ

三月号は、元金沢地裁裁判長・井戸謙一氏の講演要録「原発問題と裁判所」です。この会報を見て非核の政府を求める石川の会の基本を学ぶことができます。

この裁判は日本の産業政策、原発問題をこれだけ追求したものは無いのではないのでしょうか。大切な裁判です。人権問題では戦後憲法に基づいて裁かれた松川事件、白鳥事件、県内では山中事件など裁判例がありますが、原発問題を正面から扱った裁判は私の初めての経験です。素晴らしい。井戸謙一弁護士ありがとう。本当に感動しました。提案ですが金沢弁護士会で「原発ゼロ」をめざす講演会を開催できませんでしょうか。希望です。

詩人会議かなざわ「独標」より

志賀町 夏

安田 桂子

奇妙な静けさだ
 人の気配はない
 原発反対の旗を持つ
 私の片頬が火照り
 片頬は凍りつき
 町の沈黙がデモ隊の踵を刺す
 閉じた戸の向う側
 そっと覗く眼はないか
 そっと敬てる耳はないか
 (真昼なのに計り知れぬ闇の深さ
 辺りに不釣り合いな
 豪華な建物と巨きな道
 (大枚な金はどこから降って涌いたか
 コンクリートで塗り固められた小さな漁港
 沖には巡視艇が滑る
 (どの方角を睨むか
 原子力発電所は高い障壁を張り巡らせ
 近寄る者をパトロールカーが
 番犬のように嗅ぎつけ威嚇する
 辻々に貼られた”テロ特別警戒中”
 (原発は国家が民に仕掛けたテロだ
 地雷を膝枕に眠る町は
 借りたそのまるい膝に
 骨の髄までしゃぶられる
 金を握った者も 握らぬ者も
 もの申した者も 申さぬ者も

村八分をした者も された者も
線引きは無しだ

容赦なく身ぐるみ剥がされ

この地を追い立てられる

志賀は 福島とは違うのだ

と 誰が判を押す

事は起きたのだ

(上はいつもシラを切り

(ツケは下へと回わされる

もう神話は信じない

欲の権化の餌食になり

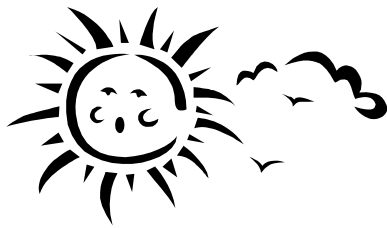
暖かな寝床を奪られるのは

真つ平御免被ると

栗立つ怒りを

夏の日射しに焼いて 晒して

無言の町に投げ返す



「和定例句会報」より

宿題「干渉」

岩原茂明 選

人位

アメリカの嘴これには畏まる

一杜

九条から脱皮を急げとペンタゴン

啓

地位

再稼動拒む世論を仇となし

啓

天位

天下りの干渉で保険金を食い潰す

大峰

軸

カネ撒いて原発の町に干渉し

絵手紙コーナー

初夏

金沢医療生協絵手紙班

野村洋子



《非核平和・行事予定》

- ・六月三日(出)一三時半：治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟石川県本部総会・金沢勤労者プラザ
- ・六月三日(出)一八時半：新日本スポーツ連盟石川連盟総会・APホテル金沢駅前
- ・六月二三日(出)一四時：いしかわ自治体問題研究所「大阪から見る日本の未来」講師森裕之立命館大学教授・自治研理事・県教育会館
- ・六月二四日(回)一四時：石川県平和委員会総会・県文教会館
- ・六月三〇日(出)一三時～一五時：金沢弁護士会「秘密保全法の問題点」講師田島泰彦上智大学教授・県教育会館
- ・七月一日(回)一三時：石川県社会保障推進協議会総会・記念講演「人間の復興か資本の論理か 三・一後の日本」石川康弘神戸女学院教授・近江町交流プラザ
- ・七月七日(出)一八時：石川憲法会議総会・記念講演「憲法の心で現在(いま)を診(み)る」講師森英樹名古屋大学名誉教授・近江町交流プラザ
- ・七月九日(回)一二時半：核廃絶街頭署名行動・Mザ前
- ・七月一四日(出)～一五日(回)：石川県平和委員会「福井の原発と闘いに学ぶ旅」・申し込み〇九〇・二二二一・九七四一へ
- ・七月一五日(回)一三時：野田淳子コンサート・金沢市民芸術村パフォーミングクエア
- ・七月二一日(出)一四時：石川革新懇総会と講演「消費税増税反対のたたかいと革新懇運動」講師大田義郎全商連副会長・金沢市武蔵が辻・ITビジネスプラザ
- ・七月二二日(回)一〇時～一二時：反核・平和おろづる市民のつどい・卯辰山平和の子ら像前広場
- ・八月三日(金)～一六日(木)：「原爆と人間展」・県庁一階展望ロビー
- ・八月五日(回)一三時～一六時：横井久美子コンサート・金沢市民芸術村「マルチ工房」・五〇人限定・二千円・金沢うたごえの会・連絡先電話〇七六・二五七・三八四七
- ・八月六日(回)：広島原爆投下の日・二〇一二年原水爆禁止世界大会
- ・八月九日(木)：長崎原爆投下の日
- ・八月九日(木)一二時半：核廃絶街頭署名行動・Mザ前
- ・八月二四日(金)～二六日(回)：IPPNW第二〇回世界大会③広島
- ・八月二五日(出)～二六日(回)：日本母親大会・記念講演 斉藤貴男氏二三・一一以後私たちがどう生きるか「新潟市朱鷺メッセ
- ・八月二六日(回)一一時～一七時：第三回「九条の会」北陸ブロック交流会・記念講演高田健九条の会事務局員・福井県教育センター
- ・九月六日(木)一二時半：核廃絶街頭署名行動・Mザ前
- ・九月二三日(回)一三時～一七時半：ピース9フェスティバル・金沢市民芸術村パフォーミングクエア
- ・一〇月九日(火)一二時半：核廃絶署名行動・Mザ前
- ・一一月六日(火)一二時半：核廃絶署名行動・Mザ前
- ・一一月二三日(金)～二五日(回)：二〇一二年日本平和大会・東京
- ・一二月六日(木)一二時半：核廃絶署名行動・Mザ前

《編集室より》

◎野々市市は広島市平和祈念公園にある「原爆の子」の像に毎年八月六日の広島原爆の日に合わせて、折り鶴を市民から募集し中学生代表が奉納しています。今年も中学生七人が参加することになりました。原爆の子の像は広島で被爆し、白血病患い一歳で亡くなった佐々木禎子さんがモデルです。野々市市総務課に尋ねたところ、折り鶴は毎年三万羽ほど市民から寄せられているそうです。(平)

◎本紙に寄稿いただいた長崎で被爆された中田喜重さんは、日本被団協の東海北陸ブロックが一九七七年頃に取り組んだ被爆体験面展が県内で巡回展示された際に絵画を写真に残されていました(後日火災で絵画はすべて焼失)。今回の被爆証言にあたり、パワーポイントを使って中田さんの写真データを紹介させていただきました。原爆被災直後の悲惨な様子を被爆者自身が描かれた貴重な記録遺産であり、是非語り継いでいきたいものです。(か)

◎カンタータ「悪魔の飽食」石川公演が終わりました。私たちが真に人間であり続けるためには、誰にもある内なる魔性を呼び覚ませることなく、人と人とを結びつけ、人間らしさを継承し続ける営み(文化のチカラ)がその保障となるでしょう。その象徴的な催事でした。(ま)